

小川芋銭 きんせん 日本畫家。慶應四年一月十八日江戸生れ、昭和十二年十一月十七日没（二六六一九三）。本名茂吉、幼名不動太郎。筆名いんせいの助、いんせいの助、う、大魚生、小川、小川生、小川甚浪、小川甚浪生、川芋、旅人芋銭、松丘、牛里、田舎畫師芋銭、芋和尚、芋泉、芋狂人、芋生、芋盗人、芋錢人、芋錢佛、芋錢天、芋錢子、芋錢柳子、芋錢生、芋錢病夫、芋錢痴、芋錢痴子、芋錢茂、草汁、草汁庵、草汁生、草汁老人、甚、甚浪、甚浪僧、甚浪子、甚浪生、甚浪子、辻泉、雲川、羸羸芋、錢等。本多錦吉郎の彰枝堂で洋畫を學び、日本畫を獨學。明治一十一年「朝野新聞」客員、二十六年茨城縣半久村の歸農後と新聞、雜誌の插畫、漫畫を描く。大正四年平福白穂等と珊瑚會と興し、六年再興日本美術院同人となる。

著書『朗誦畫詩』（合著・鹿嶋櫻菴編、明治四十四年九月十五日東京國民書院）、『俳畫の描き方』（昭和九年八月八日京文堂出版部）、『芋銭子文藝全集』全二冊（齋藤隆二編、上巻・昭和十四年十一月十日、下巻・十五年二月十五日中央公論社）、『小川芋銭草汁遺滴』（酒井二良子編、昭和十八年一月五日京文堂）、『芋銭子俳句と畫跡』（酒井二良子編、昭和二十一年十一月）『五白京都・京文堂出版部』、『芋銭子墨跡集』（大塚晶一編、昭和二十二年十一月）『白富山・芋銭子墨跡集刊行會』等。



文獻、齋藤隆二著『芋人海芋銭』（昭和十六年七月）『二十五日創元社』創元選書』、津川公治著『畫聖芋銭』（昭和十八年九月五日宮越太陽

堂書房)等。